

25 透析施設の移転の経験

上田透析クリニック

林 栄子 近藤富士美 西嶋絵美 片桐智子 坂東祐一 翠川栄治

【はじめに】

当院は本年2月に新しい施設に移転した。移転に伴う問題や対応などについて報告する。

【場所】

旧施設はJR上田駅の近くの街中にあり、大変便利な場所にあったが、狭くてスペースがなかった。新しいクリニックは駅から約1.5 Km離れた千曲川沿いで、自然環境はよいが交通の便は悪い。

【患者の要望】

移転に先立ち、患者に移転への要望のアンケートをおこなった。最も多かったのは、食事に関することであった。旧施設では厨房があって、そこで給食業者の栄養士か当院の栄養士が透析食を作っており、おかゆ、軟采、好き嫌いなどの対応も可能で、食事もおいしいと好評であった。新施設でも同様におこなってほしいとの要望が多くあった。

また、バス、電車や徒歩で通院されていた患者からはNPO法人の送迎を利用することになるので、時間や費用などについての説明を求められた。

そのほかには、更衣室や駐車場の整備の要望もあった。

【新施設の状況】

新しい施設の患者の評価の良い点では、広くなっ

てきれいで清潔なのがよい、トイレも車椅子がゆっくり出入りできるなどと、ほとんどの患者さんが述べている。ロビーも明るく、広くて、透析室への入室前には大勢の患者がなごやかに談笑されている。

透析室も十分の広さがあり、ベッドの間は1メートルあるので、透析医会の指針をクリアーしており、患者にとって閉塞感は少なくなり、スタッフも仕事をしやすくなった。特に車椅子利用の患者のベッドへの移動が容易になった(写真2)。ベッドはすべて電動ベッドになり、患者にもスタッフにも好評である。また、ロビーや透析室内外に患者用手洗いをもうけ、手洗いの励行をすすめている。

旧クリニックは街中にあり、隣にビジネスホテルがあってカーテンや窓をあげづらい環境であったが、新施設では環境はよく、窓からは千曲川や烏帽子岳を見渡すことができ、透析前に千曲川の土手をウォーキングされている患者もいる。

【問題点】

一方、問題点としては、移転当初、新施設での透析に不安があって、透析中や後に「どうも調子が悪い」と訴える患者が何人かみられた。このことは、あらかじめ移転前におこなった患者の要望のアンケートの中にはみられなくて、私たちには予期できなかった。環境が違うとはいえ、同じスタッフ、同じモニター、同じダイアライザーで透析を行うのだから問題ないと思っていたが、患者は新しい施設での透析に漠然とした不安があり、なれるのに1-2週間かかった。日常の透析にもかなり神経質になって

林 栄子 上田透析クリニック

〒386-0033 上田市御所 0268-27-3006

いる患者もいるということであり、あらかじめそのような不安を察知して、十分な対応をすべきであったと反省させられた。

食事では、厨房を施設内に設置できなかったため、外部の業者に委託した。おかゆや軟采の対応はできるが、質が落ちたとの指摘があった。そこで、食事について聞き取り調査をおこなった。ご飯が冷たい、ほぐれていない、おかずが少ない、おいしくない、箸で持てないほど細かく切られているときもある、などのクレームがあったので、スタッフ、栄養士、給食業者で話し合いをおこない、改善をはかった。患者にとって食事は楽しみの一つでもあり、さらに患者の希望にそうようにしていきたいが、コストの問題もあり100%満足していただくのは困難であるのが現状である。

透析室が広がったのはよいが、室内に支柱があるため、ベッドの配置が4ベッドずつのブロックにわかれ、カウンターから全患者を見回すことができなくなった(写真3)。そのため、患者の血圧低下や抜針事故などの急変の発見が遅れる可能性があり、その対応としてスタッフがいつもラウンドするように心がけることとしたが、少ないスタッフで雑用にも追われ、常時ラウンドしているのは困難であり、今後の検討課題となっている。

【まとめ】

新しい施設での透析治療に対して、多くの患者は程度の差はあれ何らかの不安を持っていた。スタッフはそのような不安を察知し、取り除くよう十分の意思の疎通をはかることが必要であったと反省させられた。